

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を、玄関に掲示し、職員全員が共有し実現に向けてとりにくんでいる。	共に暮らし共に生きるの理念のもと事業所の目標を掲げ、理念に沿ったケアができていないか、ぶれないようにケア会議で話し合い共有し、振り返りながら具現化に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ほほえみの防災訓練に参加していただいたり福岡地区の行事に、出来る範囲で参加させてもらっています。	地区の会合に出席し、かぼちゃ通信を地区の回覧に入れてもらうなどしながら、地域に理解を求め協力を得る関係づくりの取り組みを行っている。文化展には手作りの作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	かぼちゃ通信を地域に向け発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、入居者の状況や、運営状況を伝え、意見交換を行っています。	区長や民生委員、市の担当者も出席して開催されている。利用者の様子や行事、ヒヤリハットなど報告し意見を頂いている。近くの保育園との交流についても意見を頂き、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	市で行う研修に参加したり、サービス相談員が来所され、利用者や話をしたり、職員とも懇談、相談も行っていきます。運営推進会議にも出席して頂いております。	サービス相談員が来所し、利用者の様子を見たり活動に参加し、話し合いを行い相談や意見をもらい、相談員との会議も持たれている。困難事例についても相談し担当者につないでもらっており、市との関係を築く取り組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関ドアの施錠は、夜間のみとしています。今年度も、禁止の対象となる研修会に職員参加するよてい予定です。	拘束については研修に参加し理解している。転倒リスクの高い利用者のケアなど、職員で検討し共有して拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加し、研修内容を皆が共有し、注意、防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に参加し、職員全員が共有出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、なっとくして頂ける様質問を受けながら、説明を行っている。 改訂のあるときは、家族会にはかり説明納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を年7回行い、意見を出していただきと共に、運営推進会議に家族会会長からも意見を出していただいている。利用者、家族の意見や要望を気楽に話してもらえぬ雰囲気づくりにつとめている。	行事に合わせ年7回の家族会を開催しており、気楽に話ができる雰囲気づくりに努め意見を聞いている。トイレのプザーや他施設と比べての意見などあり、出された意見は職員で共有し運営に活かせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のケア会議や、年1回の職場懇談会を通じて、意見や提案を聞く機会をもうけている。	代表者会での内容や資料など職員に伝えられており、職員が運営について意見が言える。会長や局長との面談や懇談の場があり、職員の意見は言いやすくみ取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月、職員各自の希望に応じた勤務形態として、体調及び家族の状況に配慮している。毎月の勤務表を事務局に提出し、勤務内容を把握してもらい、緊急時など対応をお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に見合った研修会への参加機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	社協職員研修へ参加したり、市で開催している同業者研修に参加し、意見を交換交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報及び面談により安心して入居出来る環境をつくり、本人との会話や、様子を見る事で安心して生活できるよう支援している。入所後1週間は24時間シートを活用し様子をみている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約の段階で、要望、困り事をお聞きしたり、個別懇談を行い、月別状況表を確認していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の方たちが必要としている支援（主治医、排泄ケアの方法等）の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、洗濯物たたみ、野菜の皮むき他、個人個人が、自力で出来ることを行っている。利用者によっては、介護される一方になりやすい為、苦慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係が疎遠にならないよう、行事家族会に参加してもらっているが、それ以外はだんだん足が遠くなっている。職員と家族の関係も大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方にはいつ来ていただいても良い環境にはしているが、家族との外出が受診の時だけになっている。	家族と一緒に行事を計画し家族との関係が継続していくよう支援に努めている。家族とコーヒーを飲みに出かける利用者もいる。隣の通所介護事業所の利用者との交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士穏やかに過ごせるように、テーブル席の場所を工夫し、もめごとがあった時には、職員が対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居した家族や知人が来所したときには、今まで通りに対応している。 季節のお便りや、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	私の姿と気持ちシートを利用することにより本人の希望や意向の把握に努め、ケア会議などで検討している。	私の姿と気持ちシートを利用したり、日ごろの会話から思いをくみ取り、記録し、申し送りや会議で共有を図り把握に努めている。表出しにくい利用者では態度や表情からくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に生活歴や、なじみの暮らし方生活環境等の聞き取りを行い情報シートにかきこんでいる。毎日の会話から気づいた点を共有することで、把握するようつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別ファイルを出勤時に確認している。毎日の暮らしの状況を個別ファイルに記録しつつ、変化があれば、日誌、ケア会議で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を確認しつつ、職員作成の私の姿と気持ちシートを活用したうえで、介護計画を作成している。引継ぎ時、意見、アイデアを出しあっている。	利用者のやりたいことできることを把握し、利用者や家族と話し、ケア会議で話し合って思いをくみ取った計画を作成している。毎月のモニタリングで評価し意見やアイデアを出し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに日々の様子を記録、職員全員が目を通して見ている。変化があれば、ケア会議で見直ししながら共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者、家族個々の状況、その時々にあったサービス支援を行えるよう、職員間の理解の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアの受け入れや、地域行事（交流フェスティバル、文化展等）への参加をしたり、知り合いの訪問の受け入れを行っている。こだま園に交流にも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の毎月の往診又は、家族の付き添いの受診をうけ、変化があれば主治医に相談し指示を仰いでいる。	今まで診ていた医師が主治医となっており、家族との受診や往診で医療を受けている。認知症については専門医の往診がある。口腔衛生では、伊那の歯科衛生士学科の学生の研修の場となっており指導も受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昭和伊南病院との懇談会に出席し、連携を図るとともに、入退院時には、情報交換をしている。また、主治医の往診が月1回行われており、情報の提供や、相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、説明、話し合いを行い、理解して頂くようつとめている。また、日頃の利用者の状況を機会あるごとに伝え、家族に現状を把握してもらっている。その時点で確認し合っている。	事業所の出来ることを説明、話し合いを行って理解を得ている。利用者の状況をその都度伝え、家族や主治医と相談しながら方針を決めている。急な変化の場合は特に細かく記録を取って見守り、確認しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、全職員に配布し、実習すると共に、避難訓練時に救命講習をうけている。毎日のバイタルの記録、酸素吸入器と、酸素濃度系を設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を、年3回(内2回は夜間想定)行い年1回の、こだま園との共同防災訓練のありには、地域の方にも参加していただく。また、地域との協力協定を結んでいる。	火災、地震の訓練を利用者も参加して行っている。何かの時にはデイサービスと協力しあう。障がい者の受け入れを行うなど地域との協力協定を結んでいる。	訓練後の反省を行い課題の検討を行っているが、課題を次に向けて活かせるよう更に具体的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉掛けには注意をしている。トイレ、入浴時など、自分で出来ることは、極力行っている。	尊厳ある生活ができることを目標にしており、特に言葉かけには注意し、食事や入浴、排せつなどの場面を通して、職員が同じ対応ができるようにして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	相談の中で気持ちを読み取るようにしたり、職員が言葉にして聞いたりして、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望に沿えるように努めている。集団生活でのルールは守っていただくときもある。本人の気持ちを受け止めたうえで、職員から提案することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人に任せているが、衣類の調整の支援を行ったり、洗濯の援助をしている。2ヶ月に1度美容日をもうけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し、個々に合った食事の提供職員も一緒に食事を摂っている。食事の下ごしらえ、食器洗いなど出来る範囲で行っています。施設内の畑や、地域の方などからの頂き物を、利用させて頂いています。	恵方巻やぼた餅、五平餅など行事に合わせて献立を工夫し、時には外からお弁当を取ったり、ホットケーキなどおやつを作ったり楽しんでいる。畑で取れる野菜や近所から頂く野菜なども食卓に出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量は各自に合わせて提供しています。消化の良いもので対応していますが、刻み食だったり、トロミ使用だったり、食べやすく提供しています。午前、午後、入浴後、毎食水分摂取。声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの対応で、口腔ケアを行っています。歯科衛生士による口腔ケアも個別に行っておられる利用者のかたもおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立でトイレに行かれる方がほとんどですが長時間行かれない方は、職員が時間でトイレ誘導行います。介助が必要な方には、介助を行います。	自立でトイレに行く利用者がほとんどだが、利用者に合わせてトイレの外からや動作を見ながら声をかけ、一人ひとりの出来ることに合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜中心のメニューや、牛乳、乳製品など取り入れています。水分を多く摂ってもらったり便秘がちな方は主治医と相談し、薬の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴時間に制限はありますが、本人の希望や、タイミングに合わせるように努めています。	午後から入浴し、順番や拒否のある利用者には次の日にしたりと配慮し、利用者に合わせて入浴している。近くの温泉からタンクでお湯が届けられ、その時は全員が入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人に任せている。前夜眠れなかった時や体調のすぐれない時は声掛けし、必要に応じて休んでもらったりもしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理表及び個人のファイルに服薬状況表をいれてあり、確実に服薬できるように職員が管理、確認を行っている。服薬に変更あった時は、日誌、個人ファイル、管理表に記録し変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各自の能力に合わせ、各自の部屋、廊下の掃除、新聞たたみ、袋づくり、誕生日会、うた体操など取り入れている。また、季節行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望による散歩、家族との外出、(いちご狩り、バスハイク、紅葉狩り、ドライブ)など。地域行事への参加。	利用者に合わせた距離で公園を散歩したり、事業所の前の道を歩いたりしている。外に出られないときはテラスに出て、歌を歌ったりして外気に触れている。買い物に行ける利用者は一緒に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣いは職員が、金庫で保管管理している。外出の時は、小遣いとして使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を書いている。希望があれば電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	外の様子が見れたり、季節感を取り入れたディスプレイ。不快なおいがないように消臭剤も使用している。	午前、午後と掃除をして清潔に努めている。廊下にはベンチがあり、中庭も眺められゆったりした空間がある。危険を避ける意味もあるが、石鹼や消毒液は目につく所に置かないようにし、紙パンツやパットも目につく所には無く、気持ちのいい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	いまのソファや、テラスのベンチをしようできるようにしている。職員が場所の提供にこころがけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使いやすいもの、なじみのある家具など持ち込んでいる。ほんにんが塗った塗り絵や、カレンダー、テレビ、カレンダーなど。かぞくからのプレゼントもおいている。	タンスやテレビ、テーブルを置いたり作品を飾る利用者もいれば、物を何も置かない利用者もいて、それぞれの希望に合わせた居室となっている。モップをかけたり、手すりやさんを拭いたりできることをやって清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、トイレ、ふろ場など分かりやすく表示している。廊下、トイレにははてすりがついている。居室には個々に洗面台もついている。保管庫には、危険防止のため、施錠をしている。		